

3月8日(月)企画県民部② 松田 一成 委員

1 将来ビジョンにおける指標化について（ビジョン課）

最初の質問は、将来ビジョンにおける指標化についてです。

2018年、県政150年の節目に合わせて、兵庫が進むべき方向を県として提示し、これからの地域づくりの羅針盤とするため、「兵庫2030年の展望」を取りまとめました。そして、その展望で描いた将来像の実現に向け、先駆的な取組を「リーディングプロジェクト」に設定し、市町・企業・大学・団体等と連携して推進することとしています。

展望でのめざす姿は、『「すこやか兵庫」の実現 ～五国を活かし 日本を先導 世界につなぐ～』として、「3つの基本方針」と「11の将来像」のもと、起業立地県実現プロジェクトなど16項目のプロジェクトを掲げ、部局横断で取り組んでいます。同プロジェクトは毎年度の県重点施策に位置づけ、必要な施策を都度検討しバージョンアップを図るとされています。

しかし、同プロジェクトを推進する具体の施策を見てみますと、関係部局の主要施策とリンクしているとは思えず、関係しそうな施策を総花的に列記しているだけで、実現性がある様には思えません。

県として、2030年に向けて実現を目指すべきは、ポストコロナにおけるデジタル・グリーン社会への構造転換、それに伴う雇用の安定、県外への人口流出の抑制、温暖化における脱炭素社会に向けた再生可能エネルギーの開発などの取組の推進です。2030年のゴールから逆算し、いつ、何を、どこまでするのか、具体的な指標も含めたロードマップが必要で、それに基づいたフォローアップが不可欠と考えます。今のやり方では、2030年の将来像をまとめた姿で終わるのではないかと危惧しています。

一方、来年度は、21世紀兵庫長期ビジョンの見直しをされるとお聞きしています。その見直しにあたっては、KPIのような指標を設定し、県民の皆さんとも達成度合を共有できるようなロードマップをしつらえるなど、実現可能な計画とすべきと考えますが、併せて、当局のご所見をお伺いします。

決算特別委員会部局審査（企画県民部②）

【日 程】令和3年3月8日（月）

【質問者】松田 一成 委員（公明党・県民会議）

【答弁者】水埜 政策創生部長

1 将来ビジョンにおける指標化について

2030年の展望は、11の将来像を描いたものです。作ったのは3年前になりますけれども、今の施策だけではなかなか実現できない、進んでいかない、ということで、その実現に向けた道筋をわかりやすく示すために作ったのがリーディングプロジェクトでございます。従いまして、リーディングプロジェクトを構成する個別の事業、これは先駆的な取組に挑戦するものを基本にしております。ですから、必ずしも各部局の今時点の主要施策と一致しないという面があるかもしれません。我々からしますと、もっと続々と新規施策が各部局から出てきてほしいと期待しているところでございます。

ただ、ご指摘ございました、デジタルの分野は一年で本当に局面が変わりました。テレワーク、オンライン教育、遠隔医療、農のスマート化、MaaSの導入といった部分、最新技術の社会実装を各部門で位置づけて、推進していくようになっていきます。これらの事業、来年度の予算でもかなり強化しているものと考えております。また、来年度からこういった分野を横断しましたスマート県庁推進プロジェクトという新しい柱も立てて取り組みを進めていきたいと思っております。グリーン化の部門でも、次世代エネルギーとして期待の高まります、水素に特化したプロジェクトを既に設定しておりますが、これについてもFCV水素燃料の自動車についての施策を拡大しているところでございます。

数値目標の部分ですが、リーディングプロジェクトというのは、新しい仕組の導入といった新規の取組が多くなっておりますので、これまでGDPとか環境動態とか、そういった既存の統計データでは表現できないものも多くなっております。ですから、現在のロードマップの記載は、どちらかという事業の工程とか見通しを表示することに主眼を置いております。客観数値で表示したいけれどもできない状況にあるとご理解いただければ幸いです。しかし、中には数値で管理できるものもあろうかと思っておりますので、例えばモバイルデータの活用など、最近いろいろな工夫ができるようになって参りましたので、こういった新しいデータも使いながら、定量的なフォローアップの方法についても検討していきたいと思っております。

また、策定します新ビジョンの達成状況でございますが、これを県民と共有する仕組みについても、今後の重要な検討課題と認識をしております。現行ビジョンのような県民意識調査、アンケート調査でございますが、こういった評価方法が適切なのか、評価主体として誰がふさわしいのか、さらには、ご指摘の客観的なKPIによる評価のあり方も含めまして、今後幅広く意見を聴きながら検討して参ります。少なくとも今のリーディングプロジェクトよりわかりやすいロードマップを作って参りたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

〔松田委員コメント〕

やはり県民と一緒につくっていかないと、我々だけでやっても、将来がどうなっていくのかわからない。デジタルであったり、脱炭素社会であったり、将来どういう社会になっていくのか、絵面がしっかり見えるようにする。そしてそれに基づいて若い人もしっかりした雇用を結べていけるようにしないとバラバラな雇用プロジェクトのようなものだと意味がないと思います。2030年の展望は、目指すべき姿を示しており、これはこれで良いと思う。リーディングプロジェクトも17のプロジェクトを組んでおり、これはこれで良いと思う。そこに無理矢理部局の予算を付けるなら付けるで、きちんとフォローすることが必要だと思います。

3月8日(月)企画県民部② 松田 一成 委員

2 第二期兵庫県地域創生戦略アクション・プランについて (地域創生担当)

次の質問は、第二期兵庫県地域創生戦略アクション・プランについてです。

2015年度から2019年度の5ヶ年にわたり取り組んだ「第一期兵庫県地域創生戦略」の評価検証等を踏まえ、昨年度、今後5年間の目標及び取り組むべき施策を定めた「第二期兵庫県地域創生戦略」を策定しました。

本戦略は4つの戦略目標、32の重点指標、87のアウトカム指標から構成されていますが、実施計画となるアクション・プランを毎年度策定して、時期に応じた施策を重点的に展開し、その進捗状況を管理・報告することになっています。

しかし、先程来申し上げているとおり、昨今注目されている、ポストコロナにおけるデジタル・グリーン社会に向けた産業構造の転換などの取組については、戦略目標にも打ち出されておらず、責任者不在の部局縦割り体制の中でうまく機能するのか不安に感じています。

そこで、来年度のアクション・プラン策定に当たっては、刻々と変化する社会情勢を的確に踏まえ、デジタル・グリーン社会に向けた産業構造の転換などの取組について盛り込むなど、時宜を得たプランとすべきと考えますが、当局のご所見をお伺いします。

決算特別委員会部局審査（企画県民部②）

【日 程】令和3年3月8日（月）

【質問者】松田 一成 委員（公明党・県民会議）

【答弁者】今井 地域創生局長

2 第二期兵庫県地域創生戦略アクション・プランについて

委員ご指摘のとおり、ポストコロナ社会を見据えますと、「デジタル」技術の革新と脱炭素と経済成長を実現するグリーン社会の創出が大変重要でございます。

そこで本県では、デジタル社会の実現に向け、「ひょうご・データ利活用プラン」のもと、ICT とデータの利活用促進を図っております。一方、グリーン社会に関しましては、2050年に本県の二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、温室効果ガスの排出削減や省エネ・創エネを推進する、新たな「地球温暖化対策推進計画」を策定中であります。

こうした計画の策定・推進にあたりましては、所管部局が本部会議などと称します連絡組織を設置しまして、庁内各部局間での施策調整・連携にあたっているところでございます。

これに対してまして、地域創生戦略のアクションプランでは、デジタル社会、グリーン社会に向けた施策の中で、地域活性化に資する取組について推進を謳っているところでございます。例えば、8月改訂のアクションプランでは、地域でのデジタル化のニーズの高まりを受けまして、スマート工場等へのローカル5Gの導入支援等の施策を新たに掲げております。

今後も、脱炭素に向けたデジタルトランスフォーメーションやエネルギーの地産地消など、地域産業の活性化やあるいは持続可能な地域づくりにつながるデジタル、グリーン施策をアクションプランに盛り込み、その推進を図ることで、デジタル社会・グリーン社会の実現を後押ししていきたいと考えております。

〔松田委員コメント〕

2030年の大きな展望とそれに基づくリーディングプロジェクトを組んで、16の項目をしっかりと掲げて。ここまではいいと思う。ここに地域が入ってくる。五国を無理矢理入れようとする、何が何やら分からなくなる。たくさんありすぎて。これに2050年の将来ビジョンも出てきた。

どれが、いつまでに何をやる計画か、私が見ても分からないようなものは、県民の皆さんが見てもよく分からないのではないだろうか。

まず、展望がしっかりあって、毎年毎年どこまでできているかフォローバックができるようなものが、私は2つあれば十分だと思う。

2030年まではこうだが、あと30年経ったらこうだと。それ変化しますよ。ただ、2030年までのところはしっかりやらないと。8年後の話ですから。そこまではしっかりしたものを展望して、兵庫県がどういう状況にあるのか、こういうところは見ていかないと。ビジョンばかり作って、ビジョンを作るところは予算がないし、予算があるところにはしっかりやって欲しいなんて、どっちがどっちかさっぱり分からないようなことではいけない。我々も協力させていただくので、しっかりといいものを作っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。